

P T A会長だより 7月号

神宮前小学校 P T A
会長 椎名伸吉
(nobuyoshi1228@yahoo.co.jp)

これは、ニューヨークでの実話です。

3歳の女の子、ナンシーは病気で長期入院していましたが、両親は仕事が忙しいからと言って、入院してから一度も面会に来ませんでした。自分の子供なんだから、どうしようと親の自由だと言うわけです。

ひとりぼっちで誰も見舞いに来ないナンシーは、目はうつろで笑うこともなく、3歳なのに発育は1歳児のレベルでした。

そんなナンシーを憐れに思って心を痛めていた主治医は、ある日決断しました。ナンシーをベッドごと人通りの多い廊下に移動させて、ベッドの上に貼り紙をしたのです。そこには次のように書かれてありました。

「私はナンシーです。あなたがここを通るとき、急いでいるなら、ナンシーと呼んで微笑みかけてください。もし、あなたに少しだけの時間があるなら、立ち止まってナンシーと呼びかけ、私を抱き上げ、あやしてください。もし、あなたに十分な時間があるなら、ナンシーと呼んで私を抱き上げ、ほおずりをして、あなたの胸と腕の温かさを私に伝えて下さい。そして、私と会話をしてください。」

それを見て、その日から廊下を通る医師、看護師、見舞い客、入院患者たちがナンシーに声を掛け、抱いてあやしました。お年よりから幼児まで多くの人たちが、ナンシーと触れ合いました。

そして1週間後、ナンシーがニッコリと微笑んだのです。さらに寝たきりだったのが嘘のように、3ヵ月後にはめざましく回復して、歩けるようになりました。

生ける屍のようだったナンシーは、肉親ではないけれど、多くの人々の笑顔や言葉、触れ合い、温かな思いやりの気持ちによって、生きる力が与えられたのです。

このナンシーの物語は、私たちP T Aの原点ではないでしょうか。自分の子供だけでなく、縁があって一緒に時間を過ごす全校児童を、わけ隔てなく支え、健やかに成長していけるように協力するのがP T Aです。具体的な役割り分担に限らず、子供たちに「おはよう」と声を掛けるだけでも意味があることを、ナンシーの話は教えてくれています。

神宮前小学校の子供たちが、いつも元気で笑顔に溢れ、落ち着いて勉強し、仲間達を思いやる。それが実感できることがP T Aの最大の見返りではないでしょうか。自分の子供さえよければいいというわけにはいきません。学校の中が暗くよどんでいたら、クラスが荒れていたら、イジメが広がっていたら、自分の子供も不幸になってしまうでしょう。

すでにお知らせしたように、このたびP T A規約を改正して、本校に在籍中は保護者も先生も全員P T Aに加入して、活動を支えるという一文を、あえて入れることにしました。

神宮前小学校の保護者は、今までも全員が会費を払い、役割り分担して活動を支えてきました。これからも子供たちのために、このよき伝統を守り、「ひとりとは皆のために、皆はひとりのために」というP T Aの原点、理念を再確認するのが、規約改正の目的です。

規約改正について、皆さまのご理解を賜りますよう、よろしくお願い致します。